



NPO法人
ヒマラヤ保全協会

IHC-JAPAN: The Institute for
Himalayan Conservation Japan

Shangri-la

シャングリラ



遠隔農山村での
収入向上事業
キウイファーミング



100円でヒマラヤに1本の  を植えよう!

One coin One tree on Himalayan, tomorrow will be in your hands.

現 地 事 業

理事
戸田裕子

遠隔農山村での収入向上事業としての キウイファームング

「1996年に当会が開催したMES(マウンテンエコロジーツアー)の参加者がスーツケースに忍ばせて持って行って食べたのが初めて。(HCネパールスタッフ談)」その頃まだネパールには、キウイフルーツというものを知っている人は誰一人としておらず、【ジャパニーズグレープ】という名前をつけて地元で呼んでいたそうです。今では、ネパールでも主要都市近郊の市場でちらほら見られるようになり、名前と味が知られるようになってきています。

ヒマラヤ保全協会では、これまでも織物事業や紙すき事業を支援し、今では地元住民の手によって立派に事業として運営されるまでとなりました。しかし、標高の高い遠隔農山村では依然として住民の現金収入のリソースが必要とされていました。



1



2



3

写真1:ドラカ郡チャリコットのシャムさんのお宅で頂いたキウイ

写真2:キウイの苗を持つシャムさん

写真3:シャムさんのキウイ畑(ビニールハウスがありました。)

写真4:キウイの木とシャムさんの息子さん、キウイ栽培に大きな貢献をしています。



4

そんな中、2015年に起きたネパール大地震の復興支援活動を機に足を踏み入れたドラカ郡チャリコットで長年キウイの育苗研究をされてきたシャムさんとお会いすることとなりました。シャムさんのお家は地震で跡形もなく崩れてしまっていたが、大切に育てていたキウイの苗は元気に残っていたため当会は、シャムさんに日本から正式にゴールデンキウイの苗(ネパールでは初のゴールデン種の贈呈となりました)を贈呈するとともに、地震の被災を免れた苗を買わせていただくこととし、シャムさんには講師として今後のご助言ご指導いただくことが決まりました。

こうして、当協会の事業地であるミャグディ郡、パルバット郡でもキウイのファームングの取り組みが始まりました。これまでに、事業地では誰かがもらってきた苗があるものの育て方もわからず植えているのでキウイの実はもとより、ただ地を這うばかりで全く成果は見られていませんでした。

そこで、IHCネパールのフィールドコーディネータのチトラさんとサリジャ村の苗畑管理人シャカムニさんをドラカのシャムさんの農場に派遣し、講習を受けてもらいました。その後5日間かけて苗を事業地に運び事業がスタートしました。運んだ苗は全部で75苗。Hayward, Alison, Mantiの3種です。ミャグディ郡バランジャ村で61苗 (/0.3ha)、パルバット郡のサリジャ村で14苗 (/0.05ha)を育て始めましたが、途中枯れる苗もあり、現在バランジャで58苗、サリジャ村で10苗が順調に育っています。

キウイの苗には、雄株と雌株のそれぞれがあるので、配置を考え各苗の間隔は約6m開けて植えています。また、キウイは支柱に這う性質があるため支える鉄の支柱も重要な資材で、バランジャで87本、サリジャ村で10本使用し、ツルが丁度良い高さで這うよう支柱上部には鋼線ワイヤーを這わせました。

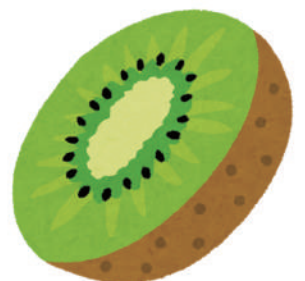
早ければ2019年にはわずかでも実がなりそうだということ。住民はこれらの苗から年間50kgのキウイの収穫を目指しており、現在のキウイの市場価格は、300~350Nrs/kgと他の果物に比べて比較的高価がつけられており、収穫量が上がるとともに、実際の所、村にどのくらいの収入が上がるか、村民全体の熱い期待と注目が集まっているということです。

【キウイファーミング事業の目的】

- キウイファーミングのプロトタイプとしての運営取り組み。
- キウイ苗の育苗と販売。
- 遠隔農山村での収入向上事業のプロトタイプとしての運営取り組み。
- 近郊農家へキウイファーミングの普及。
- 荒地の友好的土地利用。



↑サリジャ村のシャカムニさん
←↓鉄の支柱を立てた畑、作業をする
IHCネパールチトラさん



現 地 事 業

会長
相馬拓也

ネパールの農村では、農作物の栽培を中心とした昔ながらの暮らしが息づいています。村の位置する標高や、水利、日当たり、風向きなどによって、その土地に最適な作物が栽

培されています。今回は、IHCの事業地ジン村とバランジャ村の暮らしを、写真とともに紹介したいと思います（撮影日は調査で訪れた2015年11月）。



↓図3 健康食品として日本で有名になったエゴマも棒で叩いて収穫する。
←図1 編みカゴを泥で補強する様子。日々の運搬には欠かせない日用品。



→図2 村のいたるところに干されているトウモロコシ。お母さんたちが手作業で実を取って粉をひきます。

図4 ヒエやアワをたたいて実をとる子どもたち。



図5 冬支度のために薪を蓄えておく風景も見られる。一般的には1カ月間で約500kg前後を消費する。

図6 かつて用いられた石臼。粉ひき作業は近年は機械で行われるようになった。

図7 ヤクは食肉にも乳利用にも用いられる農村を代表する家畜。肉は牛肉よりもやや硬く、味が濃い。

図8 農村では屋根の上で養蜂が行われる。樽のような円柱状の養蜂箱が伝統的に用いられる。

図9 伝統的な竹筒の水入れ。家畜が舐めると水が出る仕組み。

図10 山岳地の遠隔農村では、ラバやロバはいまでも重要な物資運搬の担い手。



6



7



8



9



10



11

図11 ジーン村はヒマラヤサクラが11月の1~2週目に咲き誇り、ダウラギリ峰と美しいコントラストをなす。

国内活動



10月28日 長野県駒ヶ根市 みなこいワールドフェスタ

ポカラ市と姉妹都市である長野県駒ヶ根市では、毎年、みなこいワールドフェスタが開かれます。青年海外協力隊の研修所もある駒ヶ根市は、国際色豊かなまちづくりをしています。

2017年は台風で参加出来ませんでした。2018年は無事出店することが出来、たくさんの方々にネパールからの商品をお届けしました。

第2回のMESに参加し、駒ヶ根がネパールの景色と似ているので移り住んだという方が当会のブースを偶然通りかかり、ヒマラヤ保全協会との再会に感動されていました。ご本人もネパール支援の活動を続けておられるとの。



他にも、古い繋がりの方が見つけてくださりと、何かと駒ヶ根ではヒマラヤつながりの出会いや再会があります。

また来年も日本のヒマラヤに遊びにいけたらと思います。(文責：清田華代)



11月18日 ネパール料理&ネパール語&活動紹介イベント_vol.5 (昼ダル)



ヒマラヤ保全協会の現在の活動に関する情報宣伝と新会員勧誘を兼ねて11月18日(日)早稲田キャンパス近くのネパール料理店AMAの奥のスペースをお借りして、「昼ダル」を行いました。相馬会長、清田理事、布施理事が運営にあたりました。事前にJICA等で開催の案内を貼り出して参加を募り、当日は6人の参加者とともに、ダルバートを食べながら、本会の活動について知っていただくことができました。

また今回は、パワーポイントでの活動紹介に加え、ネパール語のミニレッスンをやってみました。ご参加いただいたのは6人の方で、以前から本会の活動に関心を持ってきている人、ネパールが好きで旅行で訪れている人、環境活動やNGO活動に関心ある人、近くネパールに仕事で赴任する人、アジア地域や環境保全を研究分野にしている留学生等多様な方々でした。昼ダルの中ではい

ろいろと質問が出たり、終了後も参加者同士で話せたりで、おいしく楽しく意義ある会になったように思います。願わくば参加者の皆さんが新会員となり、本会を支えてくれればと願いつつ会を終えました。次回は2月10日(日)を予定しています。すでに会員となっている方も可能であればぜひお顔を見せにご参加ください。大歓迎です。(文責：布施達治)

第2回 ネパール語を学ぶ・・・実際に役立つような表現と語彙①買い物編・・・

ナマステ！前は文法的内容を書きすぎた気が・・・「昼ダル」でも文字（デヴァナガリ）を教えすぎたり・・・教員特有の「あれもこれも病」を反省してます。今回からは、実用重視で、役立つような表現をサラッと紹介します。まずは買い物編。

訪ネしたらタメル地区とかパタン地区に買い物に行くこともあるでしょう。

買う時には「下さい（ディヌス）」、

「欲しい（ツァハンツ）」や

「買います（キンツ）」を使います。

値段を尋ねる時は

「いくら？（カティ ホ?）」。

また、売り手には時として

「欲しくない（ツァハンディナ）」

「必要ない（ツァヒンダイナ）」

とはっきり言ってください。

値段が高い時には

「高いです（マハンゴ ツァ）」に続けて

「安くして（サスト ガルヌス）」や英語交じりの

（ディスカウント ガルヌス）が有効です。

ご存知でしょうが、値切って買うのが普通の国です。買い物もコミュニケーションの場だと考えネパール語を楽しみましょう。↗



強く言う時には「とても（デーライorエックダム）」をつけると感情を込めた交渉ができるかもしれません。

品物が気に入ったなら「よいです（ラムロ ツァ）」や「好きです（マン パルツァ）」、そうでない時は「よくないです（ラムロ ツァイナ）」や「好きじゃないです（マン パルダイナ）」もよく耳にします。さて、次の文章の意味を取ってみましょう。

ネ「トモダチ！ヨ カストツァ？タパインライ
マン パルダイナ？」

私「ツァヒンダイナ タラ チョ ラムロ ツァ」

ネ「ホ？」

私「チョ カティ ホ？」

ネ「100」

私「デーライ マハンゴ ツァ サスト ガルヌス」

ネ「フンツァ 80」

私「フンツァ チョ マライ エックダム マン
パルツァ キンツ」

※ヨはこれ、チョはそれ、フンツァはOK、カストはhow、タラはbut、タパインはあなた、マは私 ライは（誰々）にとって、の意味。（文責：布施達治）

写真で振り返る IHCの活動

ヒマラヤ保全協会は1974年に川喜田二郎氏によって設立された「ヒマラヤ技術協力会（ATCHA）」を前身として、40年以上におよぶネパール・ヒマラヤ地域の絆があります。ここでは、IHC文庫から発掘された秘蔵写真から、かつての活動を振り返ってみたいと思います。

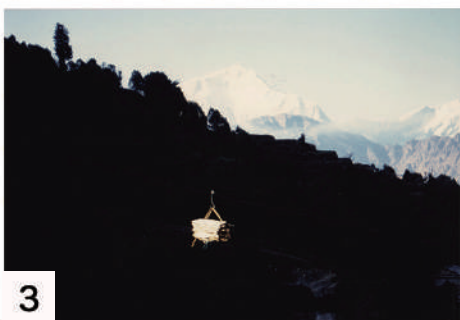
- ①笑顔が素敵な村人
- ②機織りの少女
- ③IHCが設置したロープラインで運ばれる木材資源
- ④第1回MES開催時に歓迎に訪れた村人たち（1992年撮影）



1



2



3



4

事

務

局

だより

イベント情報

2月10日(日)

ネパール料理&ネパール語&
活動紹介イベント_vol.6 (昼ダル)

(orientaltable AMA代々木店)さんの協力の下、ネパールの色々な魅力を知ることができる、誰でも気軽に参加できる楽しいイベントです。

詳しくは、HPなどでご連絡します！



ヒマラヤイラクサの帽子

在庫が少なめになってしまいましたが、ヒマラヤイラクサの帽子は、清田理事のネットショップ「Himalaya Shop」でも販売しております。<https://himalaya.official.ec>
寒さがまだまだ続きますので、ぜひ～！



寄付で支援する

100円で1本の木がヒマラヤに植えられます!!

1口 3,000円から何口でも結構です。

下記の振込み先にご送金ください。

マンスリーサポーターになる

毎月 1,000円 からマンスリーサポーターになることができます。マンスリーサポーターの皆様には、「活動報告書&計画書」年1回)をお送りします。

会員になる

年会費：個人会員 5,000円・団体会員 30,000円

会員の皆様には、現地の活動が盛りだくさんの

会報『シャングリラ(Shangri-la)』をおとどけします。

■ みずほ銀行新宿南口支店 普通2005209

NPO法人 ヒマラヤ保全協会

■ 郵便振替

00100-0-709154

ヒマラヤ保全協会

※銀行振込みをご利用いただいた場合は、ご氏名(ふりがな)とご住所を、e-mailにてご連絡ください。

100円で1本の木をヒマラヤに植えよう！ ご支援お待ちしております！

シャングリラ第104号 2019年2月2日発行 編集・発行 NPO法人 ヒマラヤ保全協会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田キャンパス9号館 8階 808号室

TEL: 080-3570-8458 e-mail: ihcjpn@ybb.ne.jp ホームページ: <http://www.ihc-japan.org>